

2023（令和5）年度 京都大学 入試問題 理系 第1問 解答例

問一

ドラマとしての演劇では、観客は単に舞台上の俳優の演劇を見るのではなく、劇場における演劇の主体として俳優とも呼応しつつ、演劇のリアリティを創り出すということ。

問二

演劇では、劇場で俳優の演劇に呼応して、観客は進行の主体となりうるが、映画では、筋書きは結末まで確定されてフィルムに収められ、観客には左右できないと思われるから。

問三

近代劇では、鑑賞者に精神の自由がなく、日常生活のものまね演技を見る程度であれば、演劇を造って見せる側に回る方が、生きる自覚である主体性が得られると思われるから。

問四

あらゆる芸術の源泉である演劇は、元来観客が主体であり、劇場で俳優と呼応しつつ演劇を成立させていた。しかし、近現代人は、芸術活動をも含むいたところで自我拡大の欲望にとらわれ、いかなる事物もそのために利用する手段とみなし、万人が互いに断絶し、自閉状態にあるということ。